

# 2 学校教育

～子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち

## <基本計画の目標>

学校・家庭・地域が連携して、児童生徒が安心して学べる地域に開かれた安全な学校づくりを進めます。  
 児童生徒に基礎・基本の確実な定着と自ら学ぶ意欲をはぐくむ教育を充実します。  
 鎌倉の特徴である自然環境や歴史的遺産、文化・芸術にふれる教育を推進し、児童生徒の豊かな人間性をはぐくみま  
 す。  
 児童生徒に社会性・道徳性を身につけさせ、ともに生きる社会づくりの大切さや健やかな心と体をはぐくみます。  
 障害のある児童生徒や教育的支援が必要な児童生徒のニーズに応じた、きめ細かな教育を充実します。  
 学校施設については、将来の教育環境の変化に対応し、児童生徒が健康で安全な学校生活を送る場として、また、地域  
 における防災や生涯学習の拠点として整備を進めます。

## <目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
学校施設の耐震化率(+)	すべての学校施設のうち耐震基準に適合している建物の割合	72.4 %	73.3 %	74.5 %	80.2 %	87.5 %	81 %	100 %
学校教育活動にかかわった市民の割合(+)	ここ1年間に、市立小中学校で行われた教育活動(学校行事に参加、教科等の活動や部活動での指導、体験学習の受け入れ等)にかかわった市民の割合	14.0 %	13.1 %	14.6 %	14.2 %	15.3 %	17 %	20 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	38.5 %	33.7 %	37.9 %	43.5 %	37.8 %	50 %	60 %

## <これまでの取組の評価～進捗と課題>

評価: ◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

### ・教育総務部

#### <昨年度からの課題>

職員室等の管理諸室は、砂塵を防ぐため窓を開けられないときもあり、夏場の職場環境は劣悪である。平成21年度は3校について空調設備を設置したところだが、順次設置していく必要がある。

#### <進捗>

学校施設の耐震化に関して、平成21年度の時点で、87.5%を達成できた。平成22年度末をもって100%とする予定である。

特別支援教育の推進として、スクールアシスタントを平成20年度から3人増員して8人とし、学級介助員も平成20年度から2人増員して20人としたところである。

#### <課題>

大船中学校の校舎各棟及び図書館の老朽化が著しく、耐震性に問題があるため、早期に改築を実施する必要がある。スクールアシスタント、学級介助員、学級支援員等、特別支援に係る支援員が学校・保護者等からのニーズに対してまだ不十分である。

担当部の評価

○

# <今後の展開(取組方針)>

## ・教育総務部

- ・大船中学校改築事業  
鎌倉市立大船中学校改築検討協議会の意見を取りまとめ、平成23年度に策定する基本計画につなげる。
- ・特別支援教育の推進  
特別支援教育基本方針検討委員会において、特別支援学級増設について検討していく。
- ・小中一貫教育の取組  
小中一貫教育検討委員会において検討し、小中一貫教育基本方針を策定していく。

## 鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



### 評価できるところ

- ・スクールライフサポーター(小学生対象)及び同じ目的で大学インターンシップ事業(中学生対象)を合計11小中学校(8小学校・3中学校)進めているのは良い活動である。
- ・学力の底上げが求められ、教師の負担が増す中で、スクールアシスタント等、支援員を補強した。平成21年度全国学力・学習状況調査で全国平均及び神奈川県平均を上回った。



### 課題・提言

- ・相変わらず耐震化の評価しかしていない。教育そのものの評価になっていない。教育委員会で行われていことも含めて内部評価シートに記載するという昨年のスポット評価での約束が守られていない。
- ・児童が安心して勉学でき、健やかに成長できるための支援が必要である。指標の評価が学校耐震補強工事にやや片寄っており、本来の学校教育を推進する立場での評価がわからない。
- ・特別支援に係る支援員の増加も必要であるが、学校技能員という熟練の方の存在も必要である。学校周辺の住民との調整や野外での体験学習の補佐などにも活躍されている。先生達とは違った立場で子ども達を支えていて信頼も厚い。